

UNIT1 プロとしての基本

1 なぜ、働くのか

- 「働く」とはどういうことだろう
- 人生において、あなたは主役
- 社会人・会社人とは何だろう
- なぜ、働きがいがあるのだろうか

2 プロフェッショナルとは何か

- プロとは何だろう
- プロになるためには
- 物づくりのプロとは
- 新しい時代のプロの条件

3 なぜ、職場のルールが大切か

- 職場のルールとは
- なぜ、ルールを守るのだろうか
- なぜ、5Sは大切なのだろうか
- なぜ、コミュニケーションは大切なのだろうか
- なぜ、報・連・相は大切なのだろうか

UNIT2 物づくりの基本

1 仕事を進める

- 仕事の管理とは
- 仕事の進め方
- 問題意識の持ち方
- 問題解決能力の高め方

2 物を管理する

- 工程管理とは
- 品質管理とは
- 原価管理とは
- 安全管理とは
- 環境の保全と美化

3 人間関係をつくる

- なぜ、人間関係が大切なのだろうか
- 上司との人間関係
- 先輩・同僚との人間関係
- お客様との人間関係
- チームワークを高める

UNIT3 改善・創造の基本

1 改善を進める

- なぜ、改善が必要か
- 改善提案の進め方
- 改善技法を学ぶ
- 改善事例に学ぶ

2 創造性を伸ばす

- 情報を集める
- 情報をとらえる
- 創造力の伸ばし方
- 創造性開発の事例に学ぶ

3 自己を高める

- 自己啓発の進め方
- 相互啓発の進め方
- 健康管理をする

テーマ

1

「働く」とは どういうことだろう

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ THINKING POINT ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

- ▼考え方1つで、働くことの意味は大きく違ってくる。
- ▼働くことが喜びなら、人生は幸せである。
- ▼創造する喜びを仕事で味わえる人は最高に幸せな人。

1 「動く」と「働く」とは大違い

「働」という字は、正しくは漢字ではなく、“和字”と言われる文字です。漢字は中国でつくられた字ですが、和字は日本人が漢字を真似てつくった日本製の文字です。日本人は、「働」のほか、「峠^{とうげ}」とか「袴^{かみしも}」とかいろいろな字をつくっています。

「動」は漢字ですが、それにニンベンをつけて「働」とし、これを「はたらく」と読ませたところに、日本人のすごい知恵があるのです。動くだけなら動物ですが、人間らしく努力するから「働く」になるとは、すばらしい創作ではないでしょうか。いやいやながら、仕方なしに、言われたことだけをやっているようでは「動く」であって、野生の動物とあまり変わらないことになってしまいます。なんとかして、人間らしく、自覚をして、積極的に「働き」たいものです。

考えてみると、就職し、定年を迎えるまで、社会人として一人前の人生を送っている人は、寝る時間を除けば、出退勤の時間を含めて最も多くの時間を費やしているのが仕事、つまり職業人としての生活です。この大切な時間を、価値ある時間にしていくためには、やはり、働くということについての考え方を正しくとらえる必要があるでしょう。

人間は考える動物ですから、考え方の違いで行動にも、人生にも大きな違いが出てきます。考え方を変えると、その結果として人生も大きく



変わってくるものです。さて、あなたは、動いているだけですか、働いていますか。

2 仕事は自分を磨いてくれる

人間らしく、積極的に楽しく働きたいと思っても、会社の業務にはさまざまな種類があり、自分の気に入った仕事ばかりをやらせてもらえるとは限りません。ときには、あまり気の進まない仕事をやらざるを得ないこともあるでしょう。

しかし、ちょっと気が進まない仕事であっても、積極的に取り組む姿勢が大切です。「不得意な仕事は、あなたの能力を磨く磨き粉だ。難しい仕事は、あなたの能力を掘り起こす削岩機だ」と言った社長がいますが、意欲を持って取り組めば、その仕事のおもしろさもわかってくるものです。

天才ピアニストと呼ばれる人たちにも「子供のころはピアノの練習をするのが嫌でたまらなかった。もし母親に強制されなければやめていただろう」と言う人がいます。石の上にも三年ということわざがありますが、つまらないな、自分に合わないなと思う仕事もしばらく我慢して努力するうちに、コツがわかりおもしろさがわかるようになるものです。

まずは自分を鍛える良いチャンスだと思って努力してみましょう。

テーマ

2

品質管理とは

THINKING POINT

- ▼品質は工程の中で心をこめてつくりこまれるものである。
- ▼後工程はお客様。不良品は自分のところでストップさせる。
- ▼同品質のよい品物をいかにつくり続けるかが大切である。

1 検査で品質はつukれない

工場生産は分業と協業で成り立っており、仕事は流れに沿って、次々にあとの工程へ送られる仕組みになっています。

最終のところには検査係がいて、製品のチェックをすることになっていますが、その段階でもし不良品が発見された場合、途中の工程はムダとなり、やり直しの損失は非常に大きなものとなります。

いちばんよいのは、各工程の作業者が、自分の工程の範囲内では絶対に不良品をつくらぬぞと決心し、検査係になったつもりで自分の仕事を見直し、チェックすることです。「後工程はお客様」と考えて、後工程には不良品を流さない努力をすることが、プロの心がまえです。

イタリアの世界的に有名な靴のメーカーでは、検査係がいないそうです。これは、各セクションの作業者が、流れてきた品物の不良箇所を発見すると、加工する前に、前工程に送り返して直させるからです。プロとしては、常にこのような心がけで仕事をしたいものです。

このように、製品の品質は、工程、とりわけ自分の工程の中でつくりこまれるのだという心がまえをしっかりと持つことが、品質管理の基本的な考え方です。

あくまでも自分の工程は自分が主人公であり、社長であるという心意気で、品質管理に徹してほしいものです。



テーマ

3

改善技法を学ぶ

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ THINKING POINT ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

- ▼すべてを一度否定してみると眼からウロコが落ちる。
- ▼改善活動は技法を学ぶことにより、大きく進展する。
- ▼アイデアは数多く出すと、よいものが出てくる。

1 ゼロサム思考で全面否定してみる

何かを改善しようとして行き詰まり、

- ・ あちらを立てれば、こちらが立たず
- ・ ニッチもサッチも行かない

といった状態になったら、一度全部を否定してみるのも1つの手です。これを「ゼロサム思考」と言います。

これは、いまあるものが一切なくなったら、あるいは必要がないと考えてみたらどうなるかという考え方です。

ソロバンで言えば「ご破算で願ひまして……」と、はじめからやりなおしてみるのと同様です。

ずいぶん乱暴な考え方ようですが、人間はすでにあるもの、目に見えるものに強くとらわれる傾向があるので、これを否定してみると、これまで気がつかなかったことに気がつき、思いもしなかったことを思うようになるものです。

たとえば、

- ・ セールスをしない→並んで買いにきてもらえるようにする。
- ・ 工場をなくす→よその工場を活用する。
- ・ 出勤しない→在宅勤務。

といったようなことです。運送しない（お客様に取りにきてもらう）、

無店舗販売、年中無休の生産や営業、といった画期的なやり方は、すべてこのゼロサム思考から生まれたものです。

2 ブレーン・ストーミングの効果

改善アイデアをたくさん出す技法で有名なものに、当時アメリカの宣伝広告会社の副社長だったA・オズボーンが考え出した「ブレーン・ストーミング」があります。これはオズボーンが、企画会議をやっても、

